

第2回（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会 会議記録

日 時：令和3年12月17日（金）10:10～12:00

場 所：さっぽろテレビ塔 2階 しらかば・あかしあ

出席者：

（（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会 委員）

北海道大学大学院 農学研究院 准教授	愛甲 哲也 氏	
株式会社石塚計画デザイン事務所 顧問	石塚 雅明 氏	
北海学園大学工学部 教授	岡本 浩一 氏	
北海道大学大学院工学研究院 教授	高野 伸栄 氏	
北海道大学観光学高等研究センター 教授	西山 徳明 氏	
札幌商工会議所住宅・不動産部会副部長 （株式会社藤井ビル 代表取締役）	藤井 将博 氏	
千葉大学大学院工学研究院 教授	村木 美貴 氏	（座長）
札幌市立大学デザイン学部 准教授	森 朋子 氏	
独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部		
北海道まちづくり支援事務所 所長	門田 高朋 氏	

（事務局）

札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室長	稲垣 幸直	
札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室 都心まちづくり課長	岩田 朋道	
札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室 都心まちづくり課エリアマネジメント担当係長	佐藤 大輔	

（関係部局）

札幌市建設局みどりの推進部長	齋藤 英幸	
札幌市建設局みどりの推進部みどりの推進課長	中田 稔	
札幌市建設局みどりの推進部みどりの推進課 企画係長	黒澤 佑介	

議 事：

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

定刻となりましたので、ただ今から第2回(仮称)はぐくみの軸強化方針検討会を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は事務局の、札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室の岩田と申します。よろしく願いいたします。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。お手元に配付しました資料は、次第、資料1 座席表、資料2 (仮称)はぐくみの軸強化方針検討会委員名簿、資料3 第2回検討会資料 本編、資料4 第2回検討会資料 資料編、以上ですが、不足はございませんでしょうか。なお本日は、委員の方全員にご出席頂いております。また事務局として、札幌市都心まちづくり推進室、業務受託者である株式会社日建設計、関係課として札幌市みどりの推進部が出席しております。なお報道各社におかれましては、この後の写真撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。また本日の検討会について、個人に関する情報など非公開情報を除き、会の次第、出席者氏名、発言者等を記載しました議事録を作成し公表しますのでご了承ください。

それでは村木座長に以降の会議の進行についてお願いしたいと思います。村木座長、よろしく願いいたします。

(村木座長)

それではさっそく議事に入らせていただきます。次第に従い事務局から資料説明をお願いします。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

それではまずお手元の資料4をご覧ください。本日使用する資料は、資料の本編である資料3と、この資料編である資料4がございます。資料編については、本日は時間が限られているため、内容の説明は割愛させていただきますが、構成についてだけ簡単にご説明いたします。

表紙にございますとおり、第1回検討会での指摘事項と対応方針、整理内容のふりかえりと、ご指摘を踏まえた追加調査をまとめております。1ページ、2ページは、前回の指摘事項とそれに対する対応をまとめています。3ページから9ページは、前回の整理内容のふりかえりということで、前回の資料のうち、本日の議論に関係する部分を再掲したものです。10ページ以降は、前回検討会での指摘を踏まえ、追加調査としてまとめた部分です。このあとの資料3の説明の中で適宜引用させていただきますので、必要に応じてご参照いただければと思います。

それでは、資料3の1ページをご覧ください。まず本日ご議論いただく主なテーマは、中

央に赤い破線で囲んでいる部分のうち、下線を引いている「はぐくみの軸強化の考え方／将来像」と「ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方／将来像」です。前回の検討会で委員の皆さまからいただいたご意見は資料編の1、2ページにまとめておりますが、「100年先の姿を具体的に考えるのではなく、時代の変化に合わせた柔軟な考え方が必要」とのご指摘を踏まえ、策定の目的について文言の修正を行いました。資料中段「策定の目的」の囲みの中の2ポツ目について、「そして次の100年に向け、時代の流れに柔軟に対応しながら新たな価値を創造し続け、札幌市民が世界に誇れる、魅力と活力にあふれる札幌都心の実現に寄与することを旨とする」というように、時代の変化に対応していく視点を盛り込みました。

続いて、その下、本日の論点でございます。1点目は、「大通・大通公園とその沿道街区の一体性を生み出すための方策」ということで、特に沿道の低層部空間をどのように活用し、どのような機能を導入していくべきか、さらにはゾーンごとにどういった空間像を描いていくかといった点、2点目は、「大通・大通公園を札幌の重要な都市軸として強化する上で求められる視点」ということで、象徴性の創出のため何をすべきか、景観的配慮として何が求められるか、といった点について、重点的にご意見をいただきたいと考えています。

3ページをご覧ください。こちらは、前回の「当検討会で何をミッションとして議論するのかを明確にすべき」というご意見を踏まえて整理した部分です。前回、「大通公園そのものの在り方は、「都心のみどりづくり方針」における検討を前提とし、はぐくみの軸検討会の中では、直接のテーマとして設定することはしない。」とご説明していました。しかし、大通の重要な構成要素である大通公園を除いて沿道だけの議論を行うことは困難なことから、議論の制限は設けずに、皆さまからご意見を頂戴したいと存じます。その上で、頂戴した「本検討会のご意見・議論の内容」に応じて、はぐくみの軸強化方針への書き込み、都心のみどりづくり方針、第2次まちづくり戦略ビジョン等への反映・調整を図っていきたいと考えております。

4ページをご覧ください。こちらは前回の検討会でお示しした「沿道まちづくりの理念」「特に重視すべき視点」「将来像」の部分ですが、カタカナではなく「もっと平易な言葉でわかりやすく」とご意見があり、「特に重視すべき視点」の部分について修正いたしました。具体的には、「シビックプライド/シティブランド」と表現していたものを「象徴・発信」に、「ウェルネス・ユニバーサル・スマート/ウォーカーブル」を「暮らし・交流」に、「グリーン/レジリエンス」を「環境・強靱」と修正しました。下段の将来像は、若干の文言修正のみで、大きく趣旨を変えたものはございません。

5ページをご覧ください。こちらは、ゾーン分けを見直した部分です。前回、「ゾーン分けは、南北の軸を境にするのではなく、はぐくみの軸と南北の軸の交点を含んだゾーン分けがよい」というご意見がございましたので、5つだったゾーンを4つに見直しました。具体的には、「はぐくみの軸」と、「にぎわいの軸」「つながりの軸」との交点をまたぎ、大通・創世交流拠点を含んだ概ね西6丁目から東1丁目までを西Aゾーンと設定しました。それ以外は、はぐくみの軸西端から石山通付近までを西Cゾーン、石山通付近から西6丁目付

近までを西Bゾーン、西Aゾーンより東側を東ゾーンとしました。

6ページをご覧ください。ここからはゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像・課題分析についてご説明していきます。資料の構成ですが、左上に先ほどの「特に重視すべき視点」や「将来像」、前回検討会でお示した「各ゾーンの現状」などを踏まえ、「まちづくり強化の考え方」を示しております。そして、その強化の考え方に基づいて実現したい将来像を、左下に「ゾーンの将来像」としてまとめました。図は将来像のイメージを表しております。右側には具体の施策を検討する際に、「強み」を伸ばし、「弱み」を克服するために何が必要かということを整理するため、「ゾーンの特性」を強みと弱みに分けて整理しました。その上で、本日特に議論いただきたい論点を、左側、「強化の考え方」の下に示しております。

それでは、西Aゾーンについて説明いたします。資料編の4ページも合わせてご覧いただきながらお聞きください。西Aゾーンでは、「はぐくみの軸」と、「にぎわいの軸」「つながりの軸」が交っております。また資料編4ページのとおり、都心の中でもビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的な役割を担っているほか、テレビ塔などが立地する札幌観光のシンボルとなっており、さらには地下街が展開して地上・地下の回遊性が高いゾーンです。こういった現状などを踏まえ、まちづくりの強化の考え方を「育んできた価値と新しい価値が融合した革新的な価値創造の拠点」を形成し、世界に誇れる象徴的な都市文化をはぐくむ」と設定しました。これは、今後大規模な土地利用更新も見込まれる当ゾーンにおいて、大通公園などこれまで育んできた価値と、土地利用更新などで生み出す価値を融合させて、新たな価値を創造することで、はぐくみの軸の中でも特に象徴的な空間としていく、という思いを込めました。

その上で、ゾーンの将来像を、4つの切り口から設定しました。まずは「象徴性」です。「官民が連携し、世界をリードする札幌発の都市文化・創造的ビジネスを象徴・発信する価値創造拠点が形成されている」としました。これは沿道での高度な土地利用を図りつつ、その中で、先進的な脱炭素・強靱化の取組の促進、多様な都市機能の集積などを図り、はぐくみの軸・都心を象徴するような都市文化・創造的ビジネスを生み出し、発信していく拠点となっている、というイメージです。2点目は「沿道の賑わい、公園との一体性」です。「公園と一体となった空間が形成されるとともに、沿道からさらに南北への賑わいのつながりが構築されている。」としました。これは沿道での機能更新に合わせて、沿道の賑わいに繋がる機能の導入や、さらには道路・公園空間と一体となった空間形成が図られているというイメージです。3点目は「回遊性、公共的空間の連携」です。「大通南北・東西の回遊性を支える中心的なゾーンとなっている」としました。これは、3つの骨格軸が交わっているゾーン特性を踏まえ、歩行者にやさしい空間の形成により、南北・東西への回遊性の向上が図られているというイメージです。4点目は「脱炭素、強靱」です。「環境にやさしく強靱で持続可能な、誰もが安心して過ごせるまちになっている」としました。こちらは、エネルギー関連や、大通公園などの防災性を高めるといった取組により、環境にやさしく強靱で持続

可能なゾーンとなっているというイメージです。

続いて「将来像実現のために留意すべきゾーン特性」です。全てご説明すると時間が足りないので、一部抜粋して簡単にご説明いたします。まずは「象徴性」です。強みとしては、「テレビ塔、札幌市時計台など札幌を象徴する景観資源が立地しているほか、噴水が大通公園の各街区を特徴づけている」といったことが挙げられます。また弱みとしては、「札幌を象徴する歴史資源として時計台が立地しているが、大通公園側とのつながりが弱い」といったことが挙げられます。次に「沿道の賑わい、公園との一体性」です。強みとしては、「地区計画や地域が主体となって策定したまちづくりガイドラインにより土地利用等の方針が示され、今後の機能更新が期待される街区がある」といったことが挙げられます。また弱みとしては「沿道と公園の一体感に欠け、低層部での沿道と公園の賑わいの連続が不足している」といったことが挙げられます。

本日の論点としては、左上にございますとおり、「①官民連携で創出する大通公園と一体性を持った低層部の機能・空間・その活用はどうあるべきか?」「②はぐくみの軸の象徴性を生み出すためにどのような取組を期待するか?」という点について、ご議論いただきたいと思います。

7ページをご覧ください。次は、概ね石山通から西6丁目までの西Bゾーンです。資料編5ページのとおり、沿道では企業のオフィス・集合住宅・ホテル・教育施設などが立地しており、多様な用途が混在しております。また、居住人口や子どもの人口の増加傾向が見られるゾーンとなっております。こういった現状などを踏まえ、まちづくりの強化の考え方を「憩いと賑わいを兼ね備え、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う、沿道と公園が一体となった街並みをはぐくむ」と設定しました。これは、今後、大規模、小規模が混在した土地利用が進むと予想される当該ゾーンにおいて、大通公園と沿道空間の連携により、居住者や来街者にとって賑わいと憩いの双方を感じられる空間としていく、という思いを込めました。

その上で、ゾーンの将来像を3つの切り口から設定しました。まずは「大通公園」です。「居住者、来街者にとってより魅力の高い公園となっている。」としました。これは、周辺の居住者が増えていること、子どもの利用が増えていることなどを踏まえ、大通公園の日常的な「いこい」と「イベント等によるにぎわい」をバランスよく感じることができ、大通公園が、居住者、来街者にとってより魅力の高い公園となっている、というイメージです。2点目は、「沿道と公園の一体性」です。「沿道低層部がまちに開かれ、大通公園の四季と公園との連続性を感じる居心地の良い空間になっているとともに、景観面でも沿道全体で一体感のあるまちなみが作られている」としました。これは、沿道低層部が大通公園との連続性を感じることができ、居住者、来街者が気軽に訪れ滞在できるような機能が導入され、景観的にも一体感がある街並みが形成されているというイメージです。3点目は、「防災性」です。「ゾーン全体が災害に強いまちになっている。」と設定しました。こちらは、大通公園の防災性向上といったことに加え、一定の居住者がいることを前提にした取組などにより、災

害に強いまちが実現しているというイメージです。

続いて「将来像実現のために留意すべきゾーン特性」です。「大通公園」の強みとしては、「大通公園西 8 丁目は、雪まつりなどの大規模イベント時のメイン会場として活用され、イベントスペースとして機能している」といったことが挙げられます。また弱みとしては、「周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、大通公園が、いこいと遊びの場として活用できる期間が十分ではない」といったことが挙げられます。続いて「沿道と公園の一体性」です。弱みとして「沿道低層部の機能が、公園内の機能と連携しておらず、公園とまちの一体感が感じられない」といったことが挙げられます。

本日の論点ですが、「①ゾーン内の規模の大小が混在した土地利用形態を前提とした場合、官民連携で創出する、大通公園と一体性を持った低層部の機能・空間・その活用はどうあるべきか?」「②西 A・西 C ゾーンをつなぐ場として、西 B ゾーンに求められる都市軸形成上の役割は何か?」といった点について、ご議論いただきたいと思います。

8 ページをご覧ください。続いて、概ねはぐくみの軸の西端から石山通までの、西 C ゾーンです。資料編 6 ページのとおり、文化芸術施設、歴史的建造物や、ホール、ホテル等の集客交流施設が立地しているほか、地下鉄駅、市電・バスの停留所が近接しており、交通利便性の高いゾーンとなっております。大通公園内は、札幌市資料館を背景にサンクガーデンが広がる美しい空間となっております。また、大通公園北側は官公庁など比較的大規模な土地利用、南側は多様な用途で比較的小規模な土地利用となっている特徴があります。

こういった現状などを踏まえ、まちづくりの強化の考え方を「都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ」と設定しました。これは、高い交通利便性を生かしつつ、札幌市資料館といった歴史資源や周辺のみどりとの連携を図って回遊性を生み出し、市民や観光客を含め、多様な交流を生み出す空間としていく、という思いを込めました。

その上で、ゾーンの将来像を、4つの切り口から設定しました。まずは「多様な土地利用、多様な都市機能」です。「多様な規模のビルが様々なニーズに対応した創造的活動の受け皿となり、交流が活性化している。また、エネルギー消費等に配慮したビルに生まれ変わることで、建物の価値を高めている。」としました。これは、様々な規模、用途のビルが集まり、それぞれのビルで脱炭素の取組が進み、それに伴って多様な都市機能が集積して、人々の活発な交流を生んでいるといったイメージです。2点目は、「都心の西側の回遊拠点」です。「都心西側の交流・回遊拠点となっている。」と設定しました。これは、札幌市資料館や教育文化会館などの公共施設、大通公園、知事公館・北大植物園といった周辺のみどりとの連続性や周遊を生む取組が進み、あわせて、そこに高い利便性を生かして集客機能が集積することにより、都心西側の交流・回遊の拠点となっているというイメージです。3点目は、「歴史と文化が漂う風格ある景観」です。「都心西側を象徴する風格のある景観が形成されている。」と設定しました。これは、札幌市資料館とサンクガーデンが一体となった空間の魅力が高まり、さらには沿道も含めて緑化やオープンスペースの活用が図られて、歴史や文化を

感じる風格のある景観が形成されているというイメージです。4点目は、「防災性・強靱性」です。「エリア単位でのBCPと環境負荷低減策への対応が進められている。」と設定しました。これは大通北側に敷地規模の大きな建物が集積していることを踏まえ、その建替え・リノベーション等に際して、エリア単位でのBCP対策や環境負荷低減策が進み、防災性・強靱性が高まっているというイメージです。

続いて「将来像実現のために留意すべきゾーン特性」です。「都心の西側の回遊拠点」の強みとして「中央区役所などの公共施設、文化芸術施設、札幌市資料館などの歴史的建造物・景観資源のほか、集客交流施設が複数立地している」といったことが挙げられます。また弱みとしては、「規模な公有地が公園に面して立地しているが、駐車場利用等により公園とまちの一体感が薄い」といったことが挙げられます。次に「歴史と文化が漂う風格ある景観」です。強みとして「○札幌市資料館の前にはサンクガーデンが広がる美しい空間があり、都心西側へのさらなる人の呼び込みが期待される」といったことが挙げられます。また弱みとしては、「札幌市資料館を眺める視点場が少ない」といったことが挙げられます。

本日の論点ですが、「①大通公園の南北で異なる性格を持つ土地利用であることを前提とした場合、官民連携で創出する大通公園と一体性を持った低層部の機能・空間・その活用に関する在り方はどうあるべきか?」「②札幌市資料館周辺エリアの回遊性を高めていくうえで、どのような機能を誘導していくべきか、また、同エリアの景観はどうあるべきか?」という点について、ご議論いただきたいと思います。

9ページをご覧ください。続いて、概ね創成川より東の東ゾーンです。資料編7ページのとおり、このゾーンの西側には、バスセンター、地下鉄バスセンター前駅が立地し、地下鉄コンコースも東西にわたって整備され、交通結節点となっております。また札幌市としても、第2次都心まちづくり計画の中で、創成川の東西をつなぐゲート空間としての整備を目指しているゾーンです。当該ゾーンの東側は、資料編8ページのとおり、共同住宅の建設が進み都心居住の受け皿になっている一方、公園が少なく、パブリックスペースやみどりが不足しております。また、今後東4丁目通の整備が進み歩行環境の向上が見込まれる、青空駐車場といった低未利用地が多い、サッポロファクトリーなど歴史資源が立地している、地域でエリアマネジメント活動が進んできている、といった特徴があります。

こういったゾーンの現状などを踏まえ、まちづくりの強化の考え方を「創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした、創造性豊かな職・住環境と、人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ」と設定しました。これは、低未利用地が多いといった特徴を持つ当ゾーンにおいて、歴史資源、地域のエリアマネジメント活動などの地域資源を活かしつつ、創成川西側からの活力を引き込みながら、多様な人材を受け入れる職・住環境や人にやさしく歩きたくなるまちなかを形成していく、という思いを込めました。

その上で、ゾーンの将来像を、4つの切り口から設定しました。まずは「土地利用」です。「創造的な活動・交流が生まれている。」と設定しました。これは、西Aゾーンで生まれた活力が東へと波及し、それと連動したエリアマネジメントなどの活動や低未利用地の土地

利用が図られ、魅力的な職住近接の環境が実現し、多様な人材が集積して活動・交流が生まれているというイメージです。2点目は、「回遊性、みどり・公共空間」です。「創成東の南北・東西の回遊性が強化されている」としました。これは大通公園の延長線上における当ゾーンにおいて、みどりや快適な歩行空間、パブリックスペースが増え、その活用が図られているとともに、南北・東西方向の回遊性が向上しているというイメージです。3点目は、「脱炭素」です。「エリア総体での環境配慮が進められている。」と設定しました。これは、面的なエネルギーネットワークの導入促進や、自転車などの利用促進のための取組、みどりの空間の整備などにより、環境にやさしいまちづくりが進んでいるというイメージです。4点目は、「防災性」です。「災害時には防災拠点として機能している」と設定しました。これは、パブリックスペースの整備が進み、日常的に活用されているとともに、防災性向上の機能も果たしているといったイメージです。

続いて「将来像実現のために留意すべきゾーン特性」です。「土地利用」の強みとしては、「低未利用地が多く今後の土地利用転換が期待される」といったことが挙げられます。続いて「回遊性、みどり・公共空間」です。強みとして「東4丁目通の整備により、地域内の南北の歩行環境の向上が図られる予定である」といったことが挙げられます。また弱みとしては、「青空平面駐車場などが多い一方で公園が少なく、パブリックスペースや緑が不足している」といったことが挙げられます。

本日の論点としては、「①大通公園の延長線上におけるパブリックスペースの不足を解消するため、官民連携での公共的空間はどのように創出され、活用されるべきか」「②回遊性創出のために求められる、沿道に面した都市機能はどのようなものか。空間の利活用はどうあるべきか。」という点について、ご議論いただきたいと思います。

資料の説明は以上でございます。

(村木座長)

ありがとうございました。それでは議論に入っていきたいと思うんですけども、本日の資料の2ページのところにありますように、論点というのが記載されています。「大通・大通公園とその沿道周辺の一体性について」と、それと「これらの空間を重要な都市軸として強化する上で求められること」ということで皆様からご意見いただきたいと思うんですけども。

今のご説明、ゾーン別にお話がありました。ということで、これからはゾーン別にご意見を伺いたいと思います。ゾーンをまたがるような所についてもご意見いただいても良いのですが、ゾーンのことを気にしながらご意見いただければと思います。

最初に西Aゾーン、6ページについてご意見頂きたいと思います。ここにも特にご議論いただきたい論点というのが記載されています。一階部分、低層部分の機能、空間の活用、それからはぐくみの軸の象徴性を生み出すための取組。事務局に質問ですが、取り組みってというのは何をイメージされているのですか。6ページの、はぐくみの軸の象徴性を生み出すた

めにどのような取り組みで、というところ、これはソフトのことをイメージされてるのか、何を委員の先生方からご意見いただきたいというふうに期待されているのか、そこだけ教えてください。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

ソフトもハードも両方含め、この方針に方向性を記載して、その後、具体的に、行政がやることもあるでしょうし、民間の動きを誘導することもあると思うんですけども、どういった施策を打っていくか、どういった取り組みが進んでいくべきか、といったことでお考えいただければいいと思います。

(村木座長)

わかりました。ではご意見頂きたいと思いますが、この西 A ゾーンについてご意見ご質問等あったらお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(岡本委員)

岡本です。まず気になるのが、南北の回遊という表記があって、他のところにも回遊とあるんですけども、回遊の先というか、核というか、規模、スケール感がちょっと分からないのが気になっていて。かつ、それぞれの通りで同じようなテイストで表現されています。しかし実際には、関連する調査の結果も提示されていましたが、密度は違うと思いますし、新幹線駅等が出来てくると、さらにあの動線を使う人達の濃さが変わってくると思います。現在行われている開発によってどのような変化が生じるのかも踏まえた上で、どうあるべきかという話をしていく必要があると思って見ていたので、その点についてちょっと考えをお聞きしたいです。あともう一つが、大通の側で T ゾーンという計画とかがあって、それぞれの建て替えが迫っている中、どんな風にまちづくりして行こうかという取り組みがあるんですが、その取り組みでも大通公園との親和性を高めたいという話とかもあるんですね。当然それも踏まえてお話しされてると思うんですけども。個別に取り組んでいる、地域で独自にまちづくりとして取り組んでいることとの関係はどのように捉えていこうと思っているのか、前回もあったかもしれませんが、改めて教え頂きたいと思います。以上です。

(村木座長)

2点ご質問がありました。事務局の方にお答えいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(札幌市 佐藤エリアマネジメント担当係長)

まず一点目でございますけれども、南北の回遊というところが同じ濃さで表示されてい

と言うところなんです、おっしゃる通り、その回遊の先にどういったような規模のものができているのか、ということで、この通りではこういったような取り組みですとか、そういった濃淡を付けて取り組みの方向性を考えていかなきゃいけないと、私どもも考えているところでございます。ちょっとこの図の表記が良くなかったのかもしれませんが、そこは意識してるつもりでございます。

もう一点、地域で進んでいるまちづくりとの関係性ということでございますけれども、それと並行しながら大通沿道側、大通側の魅力をさらに高めていくことによって、地域の取り組みというところも、後押しすると言いますか、さらに相乗効果で相互に魅力を高めていくという、そういう関係性の方針というものを作りたいと考えてございます

(岡本委員)

わかりました。あと一点だけこの②の象徴性を見出すっていう所が先ほどありましたけど、前回も言いましたけれども、市役所さんのところと、中央区役所が移転して入っているところと、壊し始めている NHK さんのところとで、この二つの街区をどのように先行事例的に見せていくかっていうのが象徴に繋がるんじゃないかなと思って見えています。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。今、岡本先生のご質問に対してお答えで、魅力を高めるために指導している、その魅力を高める行政側が、新しい開発が起きた時に、その地域、大通公園周辺の開発を含めて、地域の価値が高まるように指導しているという、その指導の内容が一体何かが、多分ここでこの後議論する時に大事な要素になると思うので、その辺りのことを少しお考えになって資料作成していただけるといいのかな、と思いました。魅力を一体どう作っていけばいいのか、多分この計画の中に書き込んでいく必要があると思うんですけど、その点も含めて皆様のご意見をいただくとありがたいかなと思いますいかがでしょうか。

(石塚委員)

石塚です、よろしく申し上げます。岡本先生の話と、それから村木先生の話を知っていると、行政が指導するというよりも、公民連携だと思うんですね。民間は民間で、公共は公共でバラバラに考えているって言うのは魅力形成には不十分な体制ということだと思うので。できれば今民間で議論しているグループと合わせて、公民連携のプラットフォームをちゃんと作って、その中で将来像を議論し、市民にも投げかけながら魅力をどう作っていくかということを検討すべきなんじゃないかという気がします。

その上で、どう魅力を作っていくのかということなんですけれども、これは西 A ゾーンだけのことでなく全ゾーンにも関係するかもしれないんですけれども。札幌の都心という

のは明治以来、北は業務で南は商業というゾーニング、そしてその分離帯としての大通というのは公園になってもやっぱり変わってこなかったと思うんですね。今後は、多機能で複層する都市の魅力というのを実感できる都心にしてかなければいけないと思うんです。その機能の複合化、多層化ということを仕掛けていくという事が一つあるのかなと思っています。

それから緑のまちづくりとも関連するんですけれども、多様な緑化手法や広場の形・活用を色々展開することを通じて、市民や事業者の皆さんが、そういう緑化や広場っていう場がどう自分たちの市民生活やビジネス、商業の活性化につながっていくのかということを感じることができるリーディングエリアとなるべきんじゃないかなと思っています。そういうことを考えた時に、この検討会でどこまで具体的な提案をしていくのかというスタンスがあまり良くは見えないんですけれども、例えば多様な緑化手法というのを、その敷地の規模ですとか、あるいは機能に応じて選択できるようなメニューを積極的に打ち出してみる、というのも一つかなと思っています。

例えば敷地が小さければ道路境界に帯状の地被植物や低木緑化を行う「ボーダー緑化」ですとか。それから特に重要なのは公園と一体に見える緑の量を増やしてくってということが民間側で必要になると思うんですけれども、単に平面的に緑化するだけではなく、「カスケード緑化」って言うんでしょうか、建物が段々に緑化のマスを作って、視覚的には立体的に緑を感じることができる。これであれば中低木の緑化でもボリュームを出すことができる、ということがあると思います。それから角地にあるだとか、そういう特性を踏まえた「スポット緑化」、いわゆるシンボルツリーですね、それを中高木で緑化するってのもありますし。それからテレビ塔からの眺望などを意識した場合に、「天空緑化」というのも重要な要素んじゃないかなと思います。見下ろした時に大通公園だけ緑に見えて周りがコンクリートってことではなく、周りの建物の屋上が全部緑になってるという事を通じて、幅広い緑の帯が形成される、というようなことなどが考えられるかなと思います。これだけではないと思うんですけれども、様々な緑を通じて豊かに魅力的にしていく、という手がかりを提供すべきかなと思います。

同時に広場についても色々な広場のあり方というのを、ここで見本市のように見せられればという気がしています。歩道状空地と小さな溜まりのカフェとか休息スペースのある「縁側広場」のようなもの。それから公園から染み出したようなポケットパークだとか、あるいは貫通広場のようなもの、「染み出し広場」って言うんでしょうかね。それから「借景広場」ってのもあり得るような気がするんです。公園を借景にして豊かさを感じられる2階の眺望テラスというようなものも積極的に取り入れていく必要があるのかなということです。それから街区が大きくなれば、街区内に建物と一体になった中庭を設けて、大通公園へとつなげていく。やはり大通公園というのは広くて心地よい面はあるんですけれども、人がそこで長く滞留するという囲まれ感が不足するところがあると思います。民間で「中庭広場」を作ることによって、大通公園の広々とした空間との関係性の中で、ここならではの広場体

験ができるということがあるかもしれません。

また「地下広場」というのがあると思うんですけれども、たんに地下と地上が分かれるのではなく、サンクン広場のように地下と地上が一体に捉えられる地下広場というようなものが必要なのかなという気がします。それらは緑の設えであったり広場の設えであったりするんですけれども、それを通じて多様な市民や来街者との交流が生まれるっていうところはやっぱり肝になると思うので、それは空間や緑の設えを作ればできるというものではなくて、やっぱりそこを仕掛けていく「多様な交流の場をマネジメントする機構や仕組み」というものをきちんと整えることが大切なのかな、と思いました。西 A ゾーンに関連しては、以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。西 A ゾーンだけではなくて、かなり他の所でも活用できることというのをたくさんご指摘いただいたと思います。特に最初スタートしたのが官民連携も含めたプラットフォームで、どうやって何をやってくのかっていうことを考えると、建物の規模に応じてどういう活用の仕方があるのか、これは多分ゾーンを越えて、なので特に西 A ゾーンは大きな建物が多いからこそ、今のような広場の使い方も含めたご指摘がたくさんあったのだと思うんですね。小さいところはそうではない使い方を検討しなければいけないので、他のゾーンでも少しまたそのあたりのこともお伺いしたいと思いますが、関連していかがでしょうか。

(愛甲委員)

今、石塚さんから多様な緑化をしようという話もありました。ちょっと私も少し考えてることをお話したいと思いますが、このゾーンというの一番、他の場所から見られるというか、写真を撮られたり、眺望という話も先ほどありましたけども、見る対象としても非常に重要で。周りを高い建物にも囲まれてますので、そういった観点からいくと、緑化手法の中では、壁面の緑化ですね、札幌ではちょっと少ないんですけど。あの緑被率だけでなく緑視率を高めるためにも、民間側の建物にですね、公園と一体感を生み出すためにも、壁面を活用するというようなことも一つ考えられるんじゃないかと思っています。

また大通公園全体で言えば、ボリュームのある緑が 6 丁目と 9 丁目にありますので、メリハリが緑化でも大事だと思ってまして、どこでも緑はずっとあればいいというわけじゃなくてですね。やはりこの西 A ゾーンは開放的で、かなりその周辺の街区との一体感というのを生み出すことが出来るエリアだと思うんですね。植栽の観点から言っても、現状の緑から言っても。それができるようにするには逆に街路の方に、大通公園の特徴にもなっている花壇を設けるだとか、そちらにそのための空間を作るとか、幅を取るとか、そういうことも考えられるんじゃないかと。そう言ったようなことを設けることを建物等を建てられる際に、少しインセンティブにするとか、そういうことも考えられるんじゃないかと今のお話を

伺って私も思いました。それで立体的というところがかなり強調されて、ここに書いてあるのは低層部分だけのことが書いてありますが、低層に限らず中層高層部分も含めて立体的に。また地下の出入り口も非常に多くある場所ですので、立体的というのをもうちょっと拡張して考えてもいいんじゃないかなという風に感じております。

(村木座長)

ありがとうございます。一階だけではなくて立体的に考える、特にこのゾーンは人がたくさん来て象徴空間であるというところで、非常に大事な視点を頂いたと思いますが、他に何かいかがでしょう。

(門田委員)

先ほどの石塚さんのお話の中で、広場等の色々な使い方、見本市をやってみるという話がありました。私もまず、やっぱり体感をしていくってということが非常に重要だと思っております。今回、新型コロナの関係で、感染防止や三密を回避しつつ経済活動にも配慮するというので、公共空間の新しい使い方、実験的なものとか、そういう積極的な活用が各地で進んでいます。日本では道路占用の許可基準も緩和されていますし、海外でも街全体をオープンカフェにするような、かなり大胆な取り組みも行われています。札幌でも使い方が色々あると思うので、とにかく何かやってみると。少し乱暴に聞こえたら申し訳ありませんが、やってみたことによって、色々な関係者の中で理解が深まるとか、そういうことが進んでいって、うまく回転させながらさらさらに変えていくようなことをしていかないと。最初からこうあるべきだ、とか硬直的になったり、昔ながらの都市計画的なやり方ではなかなか今我々がやろうとしているようなことは解きにくくなっているという懸念もあります。当然その土地の DNA であるとか、担い手として活躍している方々の意見を参考に検討することになります。

前回の検討会でも話題になったように、片側 3 車線ある中の一部を車が通行できなくなるようにして、例えば公園の拡幅であるとか、逆に宅地側の方に土地を確保して、そこでオープンカフェをやるとか色々あると思うので、そういうことをそのエリア・地域の方たちで話し合いをしながら、また、公共の方はそれをやりやすい環境づくりを支援する。実際に動かしながら色々生み出していくというようなことを考えていくことが重要なのかなと思っています。

それと、よく我々にはぎわいの創出という言葉を使うんですけども、にぎわいの創出というのはあくまで結果であって、一人一人にとって居心地のいい空間ができて、さらに人と人とが交わって、多くの人が集まって結果的に賑わいとなっていくので、あくまで一人一人の活動というものを重要視しながら、空間がどうなるかっていうことを考えていくことも必要だと思っております。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。オープンカフェの実験とか、その土地のあり方みたいなものをもう少し考えていくのが大事だということかなと思いました。手が上がっていた高野先生、いかがでしょう。

(高野委員)

資料編の4ページを出していただけますでしょうか。上の図を見て頂きたいんですけど、道路の横断面なんですけど、沿道と一体化しようという発想があるんですけど、実は今の横断面では、大通公園って、噴水の絵がありましてその左肩、それから端に木がありますよね。これまでも議論があったように、大通公園の、真ん中の部分の端に3メートルの歩道があるんですけどこの歩道の周辺に自転車が停まっていたりすることもあり、なおかつこの木が植わっていることもあって、要はこの部分が完全にバックヤードになってるんですよね。バックヤードがあって車道12メートルがあって、沿道の建物があるという構造になってるわけなんですけど、そういう意味では、沿道を一体化しようという発想が起きないような作りになっている。大通公園は完全に中を向いていて、外に対する目がほとんど向かないように。逆に大通公園の中を静穏にする、あるいは一区切りつけるという意味で、この木が植わることが効いてると思うんですけど、一体感にとってはやはりマイナス要因になってると思うんですよね。

もう一つ、Aゾーンで言うと、はぐくみの軸としての象徴性ということを考えますと、地下鉄が通っており、なおかつ車が一方通行の3車線ということで非常にリッチな環境があるんですけども。自転車という意味で考えていきますと、この自転車通行帯も定まっているわけでもなく、なおかつこの軸を歩いてずっと行き来するとやはり距離としては遠すぎるので、やはり自転車のような手段を用いて、軸を回遊するという発想が自然だと思うんですけども。そういう意味では、自転車通行帯をどこにセットするかというのが極めて重要かなと、交通の方からは思っています。その時に、図で大変小さく書いてるんですけど、車道12メートルの左端に自転車のような絵が書いてますよね。当然右側にも、軽車両は車道の左端をはずしと走るということになってますので、そういう法律通りなんですけれど。これを例えば歩道部分3mの左肩に自転車通行帯を設けてやるということも、道路の運用の仕方を変えなくちゃいけないので厳しい面があるのかもしれないんですけど、一応空間的には可能だと思うんですよね。

そうすることでバックヤードから自転車通行する部分と大通というものの一つ連続性が保たれ、なおかつこの12メートルの道路については、門田さんがおっしゃったような、ウォークブル化と言うか、一車線をさらに利用して一体化を図るような方法を考えていく、というようなことを考えていかないと。なかなか今の状況だと、本当に歩道部分3mと木のところがあって、イベントも全部中でやって、イベントの時のテント裏になったりして、完全なバックヤードになってしまうので、その辺一体化にとって非常に不利な条件なので。そ

の辺りを徐々に一体化できるような設え、道路上の構造変化を考えていく必要があるんじゃないかなと思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。高野先生に一つ質問なんですが、特にこの大きいビルが集積するような西 A ゾーンだと駐車場の入り口はどういうふうにするのがいいでしょうか。

(高野委員)

今回、駐車場のデータもありますよね。なかなか厳しい状況にあって、結構出入りがあるということになっています。早晩、北大通・南大通の入り口を無くすわけにはいかないと思うんですけど、建て替えた時には裏側から入っていくようなことを推奨していく事をすると。今のようなお話も徐々に、すごい年月があると思うんですけど、解決方法にはなっていくのではないですかね。

(村木座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(西山委員)

一つ前の4ページですけれども、将来はこうなっているという将来像が書かれています。それぞれいい言葉なのですが、私の希望としてはこういうことができないかと思います。

現在の札幌市民のライフスタイルの中で、大通公園がどのような意味を持っているかということをもまずは把握していただきたい。そして新しい大通公園が、将来の札幌市民のライフスタイルをどう変えるのか、ということを経験像として書けないかと思います。私は観光も専門ですので、札幌市の観光の最大のアピールポイントは、市民の日々の豊かな暮らしを訪問者にも追体験してもらうこと、つまり「住むように訪れてもらう」ことであると日頃から言っています。要するに札幌市民は非常に良い暮らしをしている。都市を楽しみ空間を楽しんでいる、それが全然観光資源になってないということを感じています。札幌市民が豊かな暮らしをし始めると、それが結果として観光資源にもなって行って憧れられる都市になる。目指されるデスティネーションになるということです。大きく言えばそういう発想の中で、将来像を描いてもらいたい。この将来像の中で、多分今の札幌市民は、ビアガーデンとかイベントの時にだけ行く場所になっている。むしろ雪まつりの時は客が多いから行かないでおこうと思っているような雰囲気もあります。

本来持っているポテンシャルからすると、ややプアーな、貧しい大通公園と市民との関係というものを、やや自虐的かもしれませんが、きちっと今押さえておいて、それがこのはぐくみの軸の検討を経てどのような将来を生み出すかという将来像です。要するに、いかにして市民のライフスタイルを変えるのか、という将来像を描けないものだろうか、と希望しま

す。それが多分、もう一度言いますけれども、日本国民が将来の移住先としてとか、とりあえず訪れる観光目的地として、あるいは世界から見た時に、もしかしたらオリンピックも近々あるかもしれませんが、やはり札幌という街を頭に刻む時に、イメージが非常にわかりやすいイメージャブルな都市になるためには、まさにそこに暮らす人のライフスタイルが重要だという意味です。そういう大きなはぐくみの軸検討の指針を持ったらいかがか、という風に考えるのが一つです。

そのためには、前回、申し上げた話と同じことを言うことになりますが、やはりこのぶつ切りのブロックでぶつ切りになっている公園を何とか連続化できないか、という考えがあります。それは単に東西方向に歩きやすいということではなく、いくつかの効果的な道をもし塞ぐことができたなら、それはそこが緑化され、北や南から見た時のまさにアイストップ、めざす場所（緑）になるということですね。ですから今は車が通過するだけで、いつ大通公園を通過したかも分からずに南北移動しているような状況に対して、例えば今北大がそうであるように、北大は東西の多くの道を塞いでいるから北大の存在感は圧倒的なわけです。それを超えて大通公園の存在感を圧倒的にするような。まずは長期の10年20年30年ぐらいを見据えた大きなビジョン、要するに方針、これを早い段階で描くことができないかと思えます。

例えばもしこんなことができたならと私が思うのは、やはり駅前通のにぎわいの軸というものが、もし公園化できたらどうでしょう。札幌駅からすすきのまでの一本の道が公園化されて、そこがもちろん信号にも車にも邪魔されずに快適に歩くことができるような公園になったら……。例えばこのはぐくみ・にぎわいの軸、すなわち「駅前通の公園化」といったキーワードで、すぐには当然できないことは百も承知ですけれども、これを10年20年ぐらいのスパンで実現をめざす。最初のうちはシェアードスペースみたいな形で、車と人が注意し合いながら両方が共用できるような空間にしていったり、場合によっては公共交通の整備によってランジットモール化していったりするとか、そういう風なことを順次組み込んでいくといいでしょう。あるいはイベント的に通行止めをして歩けるようにする。やがてペーブメントを人が歩くためのものに変えていくとか。

そういった段階的な事をやりながら、そうするとこの西Aゾーンの交差点がものすごく重要なポイントになり、その整備のあり方というものが全然今の検討の仕方の段階の方法論と違ってくるんじゃないかと思うわけです。そういう大きな方針に関しては、今日ぐらいまでに議論していただけたら、この会が2021年にあった意味があるのではないかという風に感じる次第です。扱っていただけるかどうかは事務局にお任せするとして、私としてはそういう風なことを考えております。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。最終的に一体どういう公園を作りたいのか、それまでにどんなステップを踏んでいくのか、ということだと思えますね。先ほど高野先生がおっしゃって

た駐車場の入り口もそうだと思うんですけども、建物は一度建ったら建て替えがすごく大変なわけなので、将来に向けてどんな大通公園の周辺を作っていくのか、それに向けてどういう実験をしながら人にそれを認識させるのか、ということなのかなと思いましたので、その辺りも少しご検討いただけると良いかなと思います。西 A ゾーン他にいかがでしょうか。

(森委員)

森です、よろしく願いいたします。私も交通の専門家ではないんですけども、ここの公園としてのあり方を考える上では、やはり交通というのは大変重要なキーワードかなという風に、先生方のご議論を聞いていて思いました。

村木先生もおっしゃいましたけれども、ここはやはり象徴的な場所になるというところから、大きな北側街区の公共的な建物の駐車場の出入口をどうやっていくか、というようなことも一つ方向性として決めていく必要があるんじゃないかなという風に思いました。南に関しては、街区がやはり違うということを踏まえて、例えば中通をどういう風にして行くか、それから南一条通、今ちょっと実験的に交通の再配分をするというようなことも聞いておりますので、大通公園を主としてやっていくということはあるかもしれませんが、北と南で性格が違うところに対して、全部が全部できるわけでもないということから、愛甲先生もおっしゃったように、分散してどこに集中して行って、どうやって行くか、ということの議論は必要かなという風に感じました。地区計画が駅前と大通の方にありますけれども、地区で細かく決めていく、その上位として、ここのエリアの、例えば駐車場の考え方ですとか、歩道のあり方ですとか、そういったことを議論していけばいいのかなという風にはあの感じました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(藤井委員)

藤井と申します。私は不動産業をやっていますので、一番思うところは建物を建てると大体 50 年とかは使いますので、それだけ長い間、変えることがなかなかできない。もし景観でこういうふうにしたい、というものがあればいち早くそういうふうにやってかないと、一番最後までなかなか形にならないのかなと思いました。

今回この会議では本当に話がざっくりすぎて、具体的に居心地がいい街並み、実際どういうものがそうなのかというのはいまいちちょっと分からない中で、例えばヨーロッパのこの緑の街が綺麗ですとか、そういった事例を出してくればイメージするんですけども。本当にざっくりすぎて、いまいちどうしたらいいのかな、というのがあります。沿道の建物を統一した色味であれば綺麗に見えるのかなと思いますし、バラバラな建物が現状ある中

で、例えば一階周りだけでも色の統一を今後していくとか、そういったことはこれからでも出来るのかなと思います。

緑化計画にしても、やっぱり緑があったらいいなと思いますけれど、特に札幌市は中小企業のビルがたくさんある中で、予算との兼ね合いが第一に来てしまうので。ちょっとこういうことやろう、とすると、費用がかかるのでやっぱりやめましょうとか、緑は途中で枯れてしまうとか、そういったことを考えると、砂利にしちゃおうとか、そういった考えになってしまう。そういったところで、行政の方で、良くある容積緩和とか、色々なプラス要因が出てくれば、やっていけるのかな、と感じました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。開発すると一度建ったものはなかなか動かないということになるので、要素をどうやって具体化していくのか、その辺りも検討していただいた方が、民間開発としてはやりやすい、そういうことをすごくメッセージとして受けたように思います。

時間の関係もあって西 B ゾーンに移りたいと思うんですが、事務局で今までのところを伺って何かありますか。無ければ最後にまとめますが、どうでしょうか。

それでは皆様、西 B ゾーンについてご意見伺いたいと思います。いかがでしょうか、若干建物の規模が小さくなる、そういうことだと思いますが。

(岡本委員)

岡本です。時間も、という話でしたのでコンパクトに。ここの地域で気になっていることは、高層のマンションがどんどん建ち始めていて、大通公園から目を見やると、すごく目立つという状況になっています。もちろん住んではいけないという話でもなくて、都心に近く快適に過ごせる居住環境を提供しているというのは大切なことだと思います。ですが、やっぱり景観とか大通公園の魅力という時に少し存在感が大きい建物、横に大きくないけど上に高く存在感が大きい建物が目立ち始めているので、住まれている皆さんにとって身近な公園にして魅力を高める切り口もよくわかるのですが、もう少し高さの考え方をこれからどうするのかをまとめて明確にしていかないとなりません。そのまままだ継続してどんどん建っていくでしょうから、それを受け入れるという形でいいのか、高さや景観のことも考えて少しあり方を規定し直すとかいうことも必要だろうと思っています。

それに付随して、人が増えたことによって、それまであった大通公園を楽しむ文化の側面が変わってきたことも事実として耳に入ってきたりしますよね。ビアガーデンの時間を短くとか音がうるさいから小さくといった話が出てきて、それはそれでしょうがないんでしょうけれども、こういうことも文化や時代の変容として受け入れてかなきゃいけないんだな、と思う中、人が増える事って結構影響が大きいな、と思うので、その辺の受け止め方について何かお考えがあれば教えていただきたいと思っています。

(村木座長)

ありがとうございます。ご質問なので、お答えいただけますか。

(札幌市 佐藤エリアマネジメント担当係長)

ご指摘の通り居住が進んできているという事に関して、デメリットと言うか、問題というところもあろうかなとは思いますが。そういった観点から並行して進んでいる都心のみどりづくり方針の中でも、憩いとにぎわいの両立というようなキーワードをもとに、その大通公園の中のあり方と言うところを検討していきたいというような話がございまして、ここの沿道の街並みが変わってきたということを前提に、大通公園のあり方と連携しながらどういったようなまちづくりを図っていくかというように考えていきたい、というふうに考えております。高さとかそういったものに関しましてはご指摘の趣旨を踏まえまして、どのような形でこの方針の中で扱っていくのかということについて検討していきたいと考えております。

(村木座長)

岡本先生よろしいですか。

(岡本委員)

低層部のところの工夫というのは、継続してやられる形・中身の工夫も必要だと思うので、それはそれで切り分けてちゃんとしていきたいな、という風には思っています。

(村木座長)

ただその賑わいをどう作るのかということと、先ほどおっしゃっていた時代の変容ということもあるんでしょうけれども、何をプライオリティにするかですね。人がたくさん来るのがいいのか、それとも今まであったものを維持し続けていくのがいいのか。そのあたりをどう考えていくのかというのは先ほど西山先生がおっしゃった、長い時間の中でどういうステップを踏んでいくのかということとも関係するかと思うので、非常に大事なご指摘かなと思いました。他にいかがでしょうか、西Bゾーン。

(石塚委員)

今の論点はとても重要だと思うんです。先ほど西山先生のお話にもありましたけれども、イベントで人を惹きつける場から、市民の豊かなライフスタイルが人を惹きつける舞台、という転換がどうしても必要な時代になってきているんじゃないかなと思うんです。そういった時にこの西Bゾーンの強化の考え方が、「沿道と公園が一体となった街並みをはぐくむ」というキーワードになっていますが、これは全体にかかることであって、ここのゾーンの特性を表しているとは言い難いと思うんですよね。

あえて言えば、都心居住とビジネス関連が混在する特性を活かして新しいライフスタイルを楽しめる場、という位置づけかと。他のゾーンもそうなんですけれども、特にここは都心居住が進んでということなどを踏まえると、そういう位置付けもあるかなと。新しいライフスタイルの場っていうのは健康とか表現とか交流など多様な機会が人々に提供されるということになるかと思うんですが、だそういう多様な機会っていうのを、公園や建物の一階部分だけで提供していくというのはどうも無理がある。もう少し広い視野からその魅力形成を考えてかなきゃいけないんじゃないかなと思います。

そういった点でいうと南北のつながりを強めていくということが重要な視点になるんですが、ただそれが道庁や植物園といった緑の資源だけとつなぐ、というだけでは豊かなライフスタイルを提供するという意味のサポートにはちょっと弱いかなという気がしています。周辺を見ると、最近 NHK が移転したり色々な動きがある中で、これは勝手に私が考えているんですが、北一条～二条にブロードキャスティングストリートというのが形成されてるんじゃないかな、という気がします。その間に全ての放送局が集積してるという事なんですけれども。放送だとかエンターテインメントの専門学校なんかもできています。放送、エンタメ、ファッションなどの集積による魅力形成ゾーンという形に位置づけることができるかもしれないなという気がします。

南の方が、北に比べるとそういう手がかりになるものが非常に少ない。商店街ということだけではちょっと足りないのかなという気がするんですけれども。せっかくループ化された市電の軌道を緑化する、海外でよくありますよね、軌道の真ん中の部分の植栽をするというものですけれども、ああいう形でちょっと風景が変わるという仕掛けをするということなどは、すぐにでも検討は可能なのかなという気はします。そういう要素を周りに散りばめながら、色々ライフスタイルを楽しめる機会を提供する、ということを打ち込んでいく。そういう視野の広がりが必要かなと思います。

それと同時にずっと気になっているのは、大通公園がこのままでいいんだろうかっていうことです。今の大通公園の形態というのが豊かなライフスタイルを送る上で本当にサポートする形になっているんだろうかということです。大通公園は東西に伸びる軸としては世界的にも強力なインパクトがある。山並みをバックとした一本軸というのはすごいんですけれども、ただ平坦な一本軸というのは歩くうえで全然魅力のない退屈な空間になるわけです。今の大通公園の設えというのは、東西に一直線の道が貫通をするという形で歩行ルートが設定されています。私はこれをぜひ崩すべきだという気がしています。明治期の写真を見ると、逍遙路という名前だったか、回遊できるような、かなり複雑なルートが実現されているんですね。今の大通公園の中でも、クジラの森のところだけ、広場の溜まりを迂回する形でルートが設定されています。ああなるだけでも、ちょっと歩みの速度が遅くなって、周りの風景を見るというゆとりが出てくるんじゃないかなと思います。それと植栽も、芝生とその中に規則的に花壇が設置されている空間というのは、見た目は一見美しいんですけれども、そこで豊かな時間を過ごすという面でいくと、非常につまらない単調な空間という

ことが言えるんじゃないかと思います。植生も芝生と花壇といったものではなくて、もう少し自然の生態系を意識した多様な植生を導入して、それが視線を留めたり、そこでベンチに座って滞留したいような気持ちを引き出させるという。そういう設えに変えていく必要があるんじゃないかなと思っています。あわせてストリートファニチャー、ベンチとかの配置も、今でいうと全部内側を向いた状態ですけれども、それを部分的にでも 90° 回転するだけでも周辺とのつながりというのは格段に見え方が変わってくるんじゃないかなと思います。

そういうことをきちっとやっていくことによって、周辺に居住されている方とか、仕事をされている方のアクティビティが公園の中に染みだして、公園の魅力もアップしてくると、そういう関係になるんじゃないかなという気がしています。建物低層部について今回随分注目されていますが、ややもするとカフェテラスを設置するとか緑化をするというところに止まってしまうと思うんですけれども、大通公園の軸性が強いあまりに単調なこの景観やそこでの体験をどう複雑化していくかということは非常に鍵なんじゃないかなと思っています。単にカフェテラスを設けるというだけではなくて、壁面位置のデコボコ化というのをもっと積極的に考えていいんじゃないかなと思います。街並みが整ってるという面でいくと壁面線を揃えるというのもあるのですけれども、一階部分に関しては歩道に敢えて出たり、歩道から引っ込んでアルコーブを作るだとか、そういうことをもっと積極的に埋め込んで魅力を作っていくということが重要なんじゃないかなという気がします。歩道に出るっていう面ですと、いろいろ障害はありますけれども、今色々ところで試されていること、それを制度化していくことになると思うんです。その場合に北海道、札幌という気候を考えた時に、冬季間は屋内化できるカフェテラスを歩道上に設けていい、というぐらいの緩和をしてアクティビティを高めていく、ということが必要なんじゃないかなと思います。

それからもっと一体に大通公園と繋げていくためには、どうしても今の 3 車線の道路というのは障壁になるわけですが、今すぐにはできることとしては、交差点部分だけ車道 1 車線潰して歩道を広げると言うことだったらできるんじゃないか。潰さない部分は駐車帯として維持すると。それだけでも大通公園と沿道の歩行空間とのつながりが強化できるんじゃないかなという気がします。

それから沿道をもっと魅力的に感じるためには、夜景が重要なんじゃないかなという気がします。夜、大通公園を歩くと周りが業務だと真っ暗になっちゃうんですね。でもそれも、メイクアップ照明という言葉もあるみたいですが、街並みを照明でメイクアップするということが大通公園の魅力を高めると。夜、大通公園で時間を過ごしても、安全でかつウキウキした気持ちになるといった、そういう仕掛けなんかを埋め込んでいく必要があるんじゃないかなという気がしました。B ゾーンに関連してはそういう感じです。

(村木座長)

ありがとうございます。やはり多様性があるから難しいんだなということを、今の話をお

伺いして思ったところですけども、他に B ゾーン何かご意見いかがでしょうか。

(愛甲委員)

短く二点だけ、一点は、ここは都心居住の話もありましたけど、若者と子供が非常に集まると。都心のみどりづくり方針の中でも調査していただいて議論になっているんですが、都心部にある保育施設等のお子さんを連れて遊びに来る場所にもなっているので、移動の安全の確保と遊べる空間を維持するということがここに求められているわけですけど。ただ本当にここだけでいいのか、というのは実は問題があって。これは東の方でも考えなければいけないことなんですけれど、現状ではここに集中している状況があるので、期待されている部分もあるので。それを維持できればしたいところですけど、本当は多少分散も考えなきゃいけないというのが課題だと思っています。

それとそういった暮らしとか遊びというものとイベントの開催というのがどうしても対立してしまう構図があって、空間なり期間なりで限られてしまって。ただ考えると、イベント自体が問題なのか、何が問題なのか。それと大通公園が内側に閉ざされてしまっているように外から見えてしまうのもですね、雪まつりの雪像ですら外側から見るとよく見えないというような状況もあったりして。実はそれを妨げているのはプレハブなんですよ。だからイベントは問題なんじゃなくて、プレハブの建て方が問題なんじゃないかと思っています。もうちょっとなんとかならないのかなと思っています。それを逆にコントロールできるようなこととか、沿道との一体感、イベント自体が外側に染み出して行って街区の方でも関連するようなこと、例えば南側の商店があるところでは展開できるというようなことも、つながっていくのかなと思って。プレハブが逆に大通公園でやっているイベントを周りに広げていくのを妨げているような気がいたします。

(村木座長)

ありがとうございます。まさに私もイベントをやっている時に同じことを思います。他にいかがでしょうか、西 B ゾーン。

(森委員)

森です、よろしく申し上げます。私は前回もお話しましたが、このエリアというのは路面電車の駅と、そこから公園の方に接続するところを強化する方がいいんじゃないかなという風に思っております。先ほど石塚委員から路面電車の所に緑化というお話もありましたけれども、この路面電車の駅自体がなかなかどこにあるかわからないというところもありますので、もしかすると公共側の取り組みになるかもしれないんですけども、まずは路面電車の駅と地下鉄の駅みたいなものの、東西の軸の歩道のところを意識的に整備していくというようなことから、大通公園を南の方に広げていくようなそんなイメージ作りができないかなという風に思っております。以上です。

(村木座長)

ありがとうございました。そのあたりはもしかするとサイン計画とも関係するのかもしれませんがね。西 B ゾーン、他に何かありますか。なければ時間的にも厳しくなってきたので、西 C ゾーンの方のご意見あったら伺いたいと思いますがよろしいでしょうか。

(門田委員)

私の視点としては、まずここははぐくみの軸の西の方の端にあるので、そこで拠点形成という可能性があるかとか、そういう視点で思ったこととお話しさせていただきます。

特徴にも書いてありますが、このゾーンでは合同庁舎や裁判所といった国の機関などの大規模な公有地が公園に面しているというのが一つの大きな特徴だと思います。これらの公的機関の建物はだんだん古くなってきているので、建物更新のタイミングに合わせて使い方を工夫すると、移転させながら集約するというメニューも考えられます。これは勝手な思いですが、そういうことができると、大通公園の前面の街区に新しい機能を導入したりとか、将来に備えて広い空間を確保しておくようなこともできたりとか、市さんの最初の説明にありましたけれども、時代の流れに柔軟に対応しながら新たな価値を創造し続けるための種地にもなっていくようなこともあります。他のゾーンと違って、国の機関の大街区があるという特徴を、いかにうまく札幌市の魅力づくりに結びつけていくかという視点は、早めの段階から考えておく必要があるのかな、というのが一つ目でございます。

それと、このゾーンの特徴ということで、文化芸術施設があるということが書かれていて、それについても少し思ったこととお話しさせていただきたいと思います。文化芸術というのは、専門家による質の高い物というイメージが強いんですけども、決してそればかりではなくて、最近は特に子供や若者とか、高齢者とか、障がい者とか、失業されている方とか、在留の外国人などにも、社会参加の機会を開くというような考え方が一般的になってきています。そういう流れの中で、社会包摂という言葉が言われるんですけど、そういう機能も注目されつつあります。そういうことがあるので、施設があるということと合わせて、公園の中の作り方も社会包摂的な事とか、公園だけではなく周辺も含めて、そういう視点で、まちづくりに文化芸術ということを、施設があるということだけではなくもっと広い視点で取り組める事があれば面白いのかなって思っているところです。以上でございます。

(村木座長)

ありがとうございます。ここもやはり地域性が他の所と違って、建物の種類ですね、その活用っていうのを将来的に考えることなどのご指摘だったかと思いますが、他にいかがでしょう。

(岡本委員)

岡本です。門田さんからもありましたけれど、合同庁舎ってどのくらい使っているのかすごく気になるんですね。あんまり使っているのを感じなくて。実際に、積極的に動いてくれないかと声掛けすることも構想できたらいいんじゃないかな、と思ってしまうほどです。それと場所としては都心エリアの西の端で、はぐくみの軸でも西の端なんですけれど、すごく重要な位置にあると思っています。知事公館の緑とか、交通手段が結節しているという話も先ほどありましたけれども、そういうことも踏まえて考えた時に、やはりもう少しここを核としてさらに広がっていく、というイメージも持つ必要もあるし、西の方と都心のダイヤモンド型の広がりの中での役割として存在感を示すという、二つの役割がきつとあると思っています。今だと端としてどんな役割があるか、という話に終始しているんですけど、もう少し広い影響範囲を踏まえた上で考えないといけないと思います。その中でやっぱり知事公館ですとか、ほんの一街区の近さですよ、斜め一街区なので、知事公館や近代美術館などとの繋がりも、もっと意識して地図の範囲も広くして広がりを積極的に検討していくことが重要ななと思います。

それと中央区役所が建て替えになるので、中央区役所に向けた人の流れは常に生じるでしょうから、南の方についても、もう2、3街区広げた形で全体を見ていく必要があると思いますし、その人の流れの間に電車通りも挟まっていますから、そこを考えていく。本来であれば中央区役所の移転も含めて、もう少し大通のはぐくみの軸の西端として積極的な地域活用を考えるべきだったと思いますけれど、今はもうそれが叶わないので、中央区役所までの動線も、もう少し取り込む形の考え方を示す方がいいかなと思っています。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他にCゾーンありますでしょうか。若干時間が押しているので短めに皆さんお願いします。

(森委員)

森です。北側の公共の集積しているエリアは、市民の皆さんに対してもやはり本気度が表せる場所だと思いますので、先ほどの駐車場の出入り口をどうしていくかとか、緑のネットワークをどうしていくかというところの実験というか、例示として捉えられる場所になるんじゃないかなという風に思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他いかがでしょう。

(石塚委員)

北側が重要だというのは私も大賛成です。東西4街区×南北3街区の大通公園に隣接する12街区。これは「みどり12街区」ぐらいの位置づけで捉えて、大通公園、植物園、知事

公館をつなぐ面的なゾーンという形で位置づけるのがいいんじゃないかと思います。というのは建物の地割が大きな地割ですから、縁辺部に全部オープンスペースや緑を配置することができるという特殊な街区だと思います。

それに対して南側は間口の狭い短冊型の敷地になっています。ここは共同化というのはなかなか進みにくいところなんじゃないかなと思うので、そういう面でいくとリノベーションという形で位置づけられるのかなという気がします。アートあるいはカルチャーにリノベーション、それと教育文化会館、それらをうまく活用しながら。札幌市資料館も、札幌国際芸術祭の拠点として使われることもありますので。そういうことを踏まえると、大通公園と周辺のオープンスペースを活用した屋外ギャラリーでも屋外アートステージでもいいんですけれども、先ほども話しがあったように市民の方も参画できるアートやカルチャーの表現の場ができれば魅力的なゾーンになっていくのかなという気がしました。そのためにはパークアンドアート PFI のような仕組みも必要になるのかなという気がしました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他、いかがですか。

(愛甲委員)

先ほど岡本先生が言われてた点と関係あるんですけど、もうちょっと広く捉えたほうがいいというのは私も同意見で。ここでやっぱり一番大事にしなきゃいけないと私思うのは、ここから背後の山並みが見えるところですよ。大通公園の一番象徴的なところで、資料館を手前にして、奥の大倉山の方まで見えるということで、これは非常に大事な、守らなければいけないこと。それで周辺の途中利用も、もうちょっと広めに考えてコントロールしていくということも必要かなという風に思いました。

(村木座長)

ありがとうございます。ゾーンによってどこまで沿道というのを考えるのか、というのはかなり性格が違うのかな、と今先生方のお話を伺いながら思ったところですが、他に追加して西Cゾーンありますか。

(藤井委員)

ちょうど弊社が西11丁目にあるので、発言したほうがいいと思ったのですが、本当にこの辺りは弁護士街と言われるところで、弊社のビルにも3件か4件、隣のビルにも3つ4つ弁護士事務所が入って、いわゆるスーツ族がたくさんいるエリアで、お昼なんかは大通公園で、暖かい時はみんなでお昼ごはんを食べている人もいたりしてですね。ただ土日になるとかなり閑散としまして、お店も日曜日はほとんどが休みになっちゃうんですね。週

末の賑わいがちょっと足りないな、というイメージがあって。先ほどアートの話がありましたけれども、隣のコンチネンタルビルも地下にアートスペースがあったり、三誠ビルという歴史的な建造物、あの辺りもアートのイベントをよく行ったりしています。そういう意味で、この辺りがアートな感じになると良いなと思います。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他、いかがですか。よろしいですか。そうすると、最後に東ゾーン、こちらはまた難しいところかなと思いますが、ご意見いかがでしょうか。

(岡本委員)

東4丁目の通りはまっすぐになるはずなので、まっすぐで描いて欲しい、というのがまず一つあります。それとこの回遊の円の大きさが何を根拠にしているのかがよくわからないのですけれども、もう少し地域に立地しているものを丁寧に拾った形で、現実味のある回遊パターンというのを反映して考えないとまずいかなと思います。それと公園との関係や官民の連携みたいな話を書いてありますけれども、今、敷地整序型の土地区画整理事業を札幌市さんも導入しようとしているはずなので、地域の方々ときちんと協議をしながら、細々残っているところを整理して、少し大きめの土地にするという仕組みは使えるようになると思うので、それを積極的に活用するような場所としても検討していくことが必要ではないかなと思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(森委員)

今のお話と連動するんですけど、土地を大きくしていく、ということはそういう方向であったとしても、今度は上物の建物があまりにも高層になってくる、ということは少し懸念した方がいいかな、と思います。というのも、今ここの裏側に結構な高層のマンションが建っている通り、こちらの場所というのは住宅の建設が今後もあるかと思うので、その辺りも含めた再開発の誘導は必要かなと思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(愛甲委員)

この部分のこの東ゾーンの絵ところに緑のネットワークの連続というのが書いてあるんですけど、これがイメージしにくい、というところがあって、大通公園の緑のネットワ

ークを豊平川までつなげるという風を書いてあるんですけど、実際に現状の街区の作りと現状ある緑を見ても、公園をここまで持っていくということなのか、どういう事を起こそうとして考えておくべきなのかというのがイメージできない、というところがあります。

ただその一方で、この場所の軸としての連続性として考えるとすれば、公園そのものの利用線というものを繋げる必要もなく。緑が持っている機能ですね、東の方で求められるのはその周辺に暮らされている方とか、そういうことも考えたうえでの緑とか、そういうことだと思いますので、機能的な部分でつなげる、量的な部分をもう少し増やしていくということも必要だと思います。それと同時に、豊平川の利用のされ方というものも考えると、自転車とかランニングで利用される方々と大通公園をどうつなぐか、というのもあると思っています。道路の部分で工夫をして、そういった連続性を増すということも必要なのかなと思います。

(村木座長)

ありがとうございました。機能と量という今の二つのキーワードは、こういう場所だと大事に位置付けていく必要があるかなと思いますが、他にいかがでしょうか。

(石塚委員)

東ゾーンはちょっと将来動向が読みきれないところがあって。岡本先生が仰られるように、区画整理等において建築が進んで行くところなのか、かなり大規模な屋外駐車場などが残って歯抜け状態の場所になっていくのか、わからないところがあるんですが。仮に歯抜け状態で大規模駐車場が残ったとしたら、そこをうまく逆手にとって、その屋外駐車場を活用した定借で「ちょいチャレまちなか広場」と言うんでしょうか、若者たちがチャレンジできるような。コンテナでも置きながら、そこでショップやセルフビルドで色々自分たちでプロダクトするような場所、あるいは交流の場にしていくとか。ということで、まさに何でもチャレンジできる場所として、市も協力しながら場を提供していく、ということで活用していくという手もあるのかなという気がしました。以上です。

(岡本委員)

先ほど敷地整序型の土地区画整理と言いましたが、皆さん土地区画整理と聞くと、どうしても建物の方をイメージするみたいですが、保留地を用意してそこを豊かに使う、という使い方もあるはずなので、細々できている空き地をきちんと整理しても、少し集まりやすい、あるいは使いやすい空間を用意する、という方向での区画整理の利用っていうのも是非考えて欲しいというところです。

それと、ここに創成東地区計画がかかっている、マンション等は公開空地を用意してくれる場合もありますが、あまり豊かな公開空地ではないので、公開空地の仕立て方についても、緑との連携を踏まえた上で、いいものを提案していく、あるいは事例を評価していく、とい

う仕組みも必要かなと思います。

(村木座長)

特に住宅が多いところだからこそですね。他いかがでしょう。

(高野委員)

資料3の5ページに図があってですね、大通公園の緑の部分が東ゾーンになると8メートルになるのでとても細い図になってしまうわけですが、また先ほど資料編の8ページにまた今の状況、断面図が書いてるんですけど、先ほどもありました豊平川へのアプローチと言うか、ランニングされる方々のルートにもなっている可能性もあると思うんですけど。ある意味、今の8.5mの中央分離帯というのは、公園というよりも、車で走る人にとって環境がいい、ヘッドライトが眩しくないとか、安全に走れるとそういう機能になってしまっていて。それで3車線あって5メートルの歩道ということなので、ここの区間については今の幅員構成が本当にいいのかどうか、もっと歩道を広げ中央分岐帯を狭めるといふこともあるのかもしれないし、逆に中央分離帯を広げて、この中にリッチな歩道を作るとか、そういう可能性もあるのではないかと思うので。これについてはそういう幅員構成についても交通量を勘案し、利用形態を勘案しながら検討しても良いのかなと思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。エリア機能が変わってくるから、だからこそこういう空間をどう活用するか、ということですね。他にいかがでしょう。そうするとゾーン特に関係なく、あと残り5分ぐらいですけども、ご意見、何か言いたいことがあったらお受けしたいと思いますがいかがでしょう。

(藤井委員)

自転車の話が出ましたけれども、いま大通公園の左側が自転車で通れるようになってるんですけど、そこに停車する車もいっぱいあって、その度に自転車が車道に出るんですね。そうすると、車は走っていて危ないんですよ。そういう意味で、将来的に自転車専用の道ができるといいなと思っています。

(村木座長)

ありがとうございます。それは先ほど高野先生が言われていた、大通公園側に置く、というのも、実験しながら検討していくというのも大事なのかなと思います。他にいかがでしょう。

(石塚委員)

東ゾーンへ大通を伸ばしていく、ということ考えた時に、やっぱりネックになるのはテレビ塔だと思うんですね。テレビ塔はシンボリックな建物であり、そこから眺望を得られるという面でのタワーはいいんですけども、問題は基壇部ですね。階段状になっていて、大通公園側から創成川を挟んで東の方への視界をブロックしてしまう。アクティビティもあそこでブロックされるという事ですので、基壇を下げて東の方に空間的に連続化できないものかな、と。

(村木座長)

ありがとうございます、他にいかがでしょうか

(岡本委員)

今までの議論を踏まえると、結局南北方向で大通公園を連続化する、ということはもちろん重要ですけど、道路ありきの話のようです。南大通と北大通を潰してしまう、ということはできないのかなと思ってしまいます。もう少し北一条、大通、南一条、という縦長のブロックという形成も、どこかで将来的にしていくようなイメージが持てたらまた違うのかなと思ったので、夢見がちですけど、お伝えしておきます。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。将来的に最後どうするか、というゴールに向かってどう考えていくか、ということですよ、ありがとうございます。他にいかがですか。よろしいでしょうか。

最後、私も思ったことを少しだけ発言させていただくと、今日の議論を聞いていてすごく思った事なんですけど、ゾーン別に考えたほうが良いところとそうではないところ、全体でどうしていくのか、という。石塚さんが仰っていたような、官民が話し合いながら、というのはつまり、みんな投資したい時に何ができるのか、ということと、公共側が要求したいことが何なのか、というところのすり合わせの議論をするようなものの大事さもあり。それは特に開発の圧力が高そうな西 A ゾーンのようなところと、住宅等が出てきて機能がかなり多様化していくところ、この辺りが多分ゾーンと関係してくるんだと思いました。そうでありながら、全体で考えなきゃいけない、それは例えば敷地の大きさによるかもしれないし、一階部分の活用の仕方もそれによってかなり影響してくるかもしれないので、そのところは今後大きく検討していく必要があるのかな、ということをととも思いました。

それから今日の資料で書かれている脱酸素のこと、結構書かれていたんですが、これについて私はもう少し南北で使えるアセットというのが結構難しかったりするので。これについてはエネルギーの計画の方でまた少し検討していく必要があるなと思いましたが、こういったものの連携、どこが何をやり、そしてどこまでを期待して、ここの計画が何を記載

してくのか、ということをもう少し整理する必要性もあるかなと思います。皆様ありがとうございました、それでは事務局の方にお返ししたいと思います。ご意見を市の方に伺わなかったのも、それも含めてお願いしたいと思います。

(札幌市 稲垣都心まちづくり推進室長)

都心まちづくり推進室長の稲垣でございます。委員の皆様におかれましては、本当に限られた時間の中、非常に多岐にわたるご意見を頂戴いたしまして、私も勉強させて頂きながら議論を拝聴していた次第です。

今日の議論の中で、冒頭に西山委員からありましたけれども、改めてどういうところに今後に向けた取り組みの重点を置いて、何を目指して進むのか、非常に重たいメッセージとして受け止めました。ある程度将来像ですとかコンセプトを一旦整理しましたけれども、我々チームの中でも、その大きなテーマに立ち戻って、再度検討した上で次に進みたいと思います。

それから全体を通じて、やはり公民連携で新しいはぐくみの軸というものを作っていく必要が当然にあることを考えると、取り組みの具体性と言いますか、例えばこういうことを目指したいのだ、というところが、まだ議論の序盤だということもあって、皆様にも分かりやすい形で提示しきれてないな、というのは改めて反省として感じた次第です。この検討会、次に一旦の取りまとめ、中間の整理をさせていただきますけれども、次年度も引き続き議論を続けさせていただきますので、具体の施策を絞り込んでいく過程では、行政としてこういうものを目指したいんだ、あるいは民間の皆さんにはここを目指して欲しいんだ、実例としてこういう空間を創っているのを広げていきたいんだ、ということになるべく分かりやすく我々の方からもご提示させて頂きながら、委員の皆様にもまた議論を掘り下げていただきたいなと思っていますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

本日は、多くのご意見をいただきまして、ありがとうございました。議事録につきましては、皆様に内容のご確認をいただいた上で、後日ホームページにて公開させていただきます。次回の検討会は2月もしくは3月の開催を予定しております。具体的な日程につきましては、あらためてご案内させていただきます。本日は、以上で閉会いたします。どうもありがとうございました。